

健診受診をあたりまえに思う文化づくり！

みんなで創り、みんなで育む、安心して暮らし続けられるまち 郡上

郡上市は、平成16年3月に郡上郡7ヶ町村が対等合併し、今年で15年目を迎えました。人口は、平成30年1月1日現在で42,672人、高齢化率は35%を超え、典型的な少子高齢化の道をたどっています。総面積の9割を山林が占め、長良川とその支流に集落や耕地が開けています。海抜の高低差が大きいことから、最南部の美並町では積雪は少なく、最北部の高鷲町は豪雪地帯という特徴があります。そんな郡上市は、「郡上市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく施策に広い意味での「観光立市」を旗印に掲げています。ここでの「観光」とは、あらゆる分野の「宝もの」に光を当て、磨くことによってその価値を高め、住みよいまちづくりを推進するという意味で、「健康づくり」もその一つと考えています。

毎日が保健師の人材育成

県土の10%を占める郡上市は、大変広く市内移動にかなりの時間を要します。保健サービスの質を確保しつつ、保健事業を効率的に行うために、保健師は本庁業務を行いながら、市内を南北二つのエリアに分けてエリア内で旧町村単位に駐在し、担当地域、担当エリアの業務を行います。チーフ保健師は、エリア内の事業調整や進捗を管理し、駐在保健師の指導や相談にあたります。事業チーフ会議(週1回)、事業チーフとエリアチーフによる会議(月1回)、エリア内メンバーによる会議(月1~2回)といった調整会議の流れで、事業の計画、決定、実践、評価を繰り返しています。また、会議や事業の度に全担当者で「振り返り表」を用いて評価しながら保健師自身の資質向上をはかっています。

受診率向上を目指した特定健診等評価推進会議

私たちが保健師が所属する健康課では、市民が健康の価値を高めていくための重要施策として「特定健診」を挙げています。特定健診の制度化から、受診率向上のための様々な取り組みを行ってきました。平成20年

健診啓発用Tシャツ



郡上市国保 特定健診受診率



度は43.5%だった受診率が、微増ながら年々上昇し、28年度には57.5%(県下4位)になりました。目標の65%を目指し、健診初年度から継続して開催している「特定健診等評価推進会議」では、健康課、保険年金課、高齢福祉課、健診に携わる各振興事務所、公立医療機関の職員が年3回一堂に集まり、受診率アップのための意見交換を行い、計画・実践・評価そしてまた実践といったPDCAサイクルを展開しています。

地区組織・民間団体と協働

としました。また平成29年度から、実態を把握するため特定健診の場で、家庭に血圧計を持っている人の割合、血圧を測っている人の割合を調査しながら、その後の分析を進めています。

社推進計画」を策定しています。データヘルス計画の上位計画となる本計画では、「みんなで創り、みんなで育む、安心して暮らし続けられるまち」を目指しています。その理念を推進していくために「認知症」を優先する健康課題とし、その「予防」、「支え」に向けた取り組みを行なうこととしています。データヘルス計画は上位計画との整合性を保ち、認知症の要因である脳血管疾患のリスク因子の一つが高血圧症であること、また、郡上市国保の外來件数で高血圧症が最も多いことから、高血圧対策を中心に推進するこ



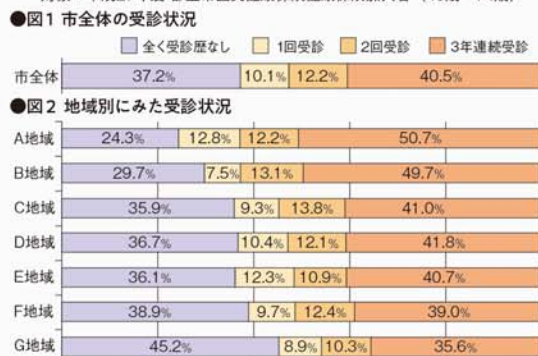
特定健診等
評価推進会議

郡上市健康福祉推進計画とデータヘルス計画の連動

市では、平成28年3月に保健事業の活動指針となる「第2次健康福

郡上市特定健診受診行動分析結果

対象：平成27年度 郡上市国民健康保険健康保険加入者(40歳~74歳)



毎年3月に、市内全世帯に健診希望調査票の配布と回収を市民の手により行っています。これは自治会をはじめ地域の母子成人保健推進員、地域保健推進員の理解と協力があるからこそ出来ることです。さらには医師会の協力のもと、市内医療機関へ年4回程訪問し、健診啓発、精密検査の依頼を行います。また、薬局、接骨院、喫茶店、理容店など市民が多く立ち寄るところに健診啓発への協力を依頼しています。自治会からの希望により健診出前講座に出向き、寸劇などを行うこともあり、今ではスタッフの健診スタイルとして定着しています。

市民の受診行動に着目！

特定健診が始まって10年が経過する中、受診率が伸び悩んでいる現

受診率65%を目指して！

実もあります。そこで健診を受ける人、受けない人の受診行動の地域差に着目しました。平成25年度から27年度までの3年間の受診状況(図1)をみると、市全体では全く受診歴のない人の割合は37.2%、1~2回受診した人は22.2%、3年連続して受診した人は40.5%でした。地域別の受診状況(図2)をみると、全く受診歴のない人の割合が一番少ない地域で24.3%、多い地域は45.2%と約20ポイントの差がありました。一方、3年連続して受診した人の割合は、一番少ない地域で35.6%、一番多い地域で50.7%と約15ポイントの差があることがわかりました。これらの分析結果を健診啓発にどのように活かしていくかも、前述の評価推進会議で検討していくこととなります。

市民一人ひとりが「健診受診をあたりまえに思う文化」を根付かせていくには、さらに啓発を進めることが必要です。また、認知症防止や重症化予防にもつながる高血圧対策への取り組みも重要です。市民の皆さんと協働し健診受診率65%をめざして今後も邁進していきます。